

森口良樹 令和5年4月度特別作品

梅まつり 森口良樹

以前は、夫婦で夏休みや冬休みを利用して、よく二泊三日か三泊四日の小旅行に行っていたものだ。しかし、私が病気をしてから、もっぱら、車で日帰りの、近くの紅葉狩りや銀杏拾い、蜜柑狩り、蕨取りなどに行っている。光の冠山の「梅まつり」もその一つだ。コロナ禍で、この三年、中止されていたが、今年は何催されると知った。山の中腹一面に紅白の梅の香が漂い、瀬戸内海を見下ろす景色に惹かれ、よく通っている。途中には、茶屋や休憩所が設けられ、植本市や天満宮に俳句の報句箱が設置されたりしている。そして、夫婦で一句ずつ報句して帰るのだ。今年もまた、夫婦で梅見を楽しめた一日であった。

梅の香のはやも匂へる駐車場

警棒の捌く人出の梅見かな

向かひ来る人に日の差す梅二月

人が寄る鉄捌きや臥龍梅

往き交へる白帆の船や遠霞

白梅や父が後ろに居るやうな

雲の間の深き青さよ揚雲雀

梅が香の天満宮に手を打てる

太鼓橋渡つて帰る道朧

若人にしづかに薰り夜の梅

《作品鑑賞》
梅見をご夫婦で楽しみ、居合わせた方々とも心が通じ合うような豊かな時間を過ごされたことが伝わる味わい深い作品です。

知佳子

向かひ来る人に日の差す梅二月

梅にも人にも二月の日が差し、輝きの中にある。今のこの時を心から慈しんでおられます。

白梅や父が後ろに居るやうな

年齢を重ねて味わいが増す梅見。ご自身の中にお父様の面影を感じ、お父様との人生を思われているのでしょうか。心に響く句です。

梅が香の天満宮に手を打てる

ご夫婦並んで手を打つ。思いを口に出すことは無いかもしれないが、人生を共に歩んだお二人にとって、何よりの時間なのですね。

綾乃 令和5年4月度特別作品

子離れの時期

綾乃

この春、息子が小学校を卒業しました。地域のミニバスケットボールチームに所属しており、彼がキャプテン。親も監督のお手伝いや試合の準備に追われ、慌ただしい日々でした。卒業や入学準備もあり、高校生の娘には、少し寂しい思いをさせたかもしれません。思春期のふたりの子は、むづかしい面もありますが、私としては、子育てはひと段落。次は子離れ、家族の変化の時期と思い、身軽ですが、寂しさもあるなかで過ごしています。

卒業致稽古してゐる子供部屋

膝揃へ卒業証書待つてをり

春蘭のコサージュ友との別れかな

風光る引退試合の子の背中

車団のユニフォーム仕舞ふ春の夜

言いなりにならぬと言うて吾子の春

子に胸を張つて生きたし梅ふふむ

吾子の四肢すらりと伸びて雛祭

親として世話はここまで春疾風

予定なき週末夫と花種蒔く

《作品鑑賞》

井藤希

綾乃さんは家族の句をよく詠まれる。その綾乃さんがお子さんの小学校卒業に際して、家族の季節の区切りを感じそれを前向きに捉えつつ自身の一抔の寂しさも含め静かな句にされた。一つ一つの句に惹きみにあふれた眼差しとお子さんの健やかな将来を祈念する気持ちが表れている。

風光る引退試合の子の背中

キャプテンとしてチームを引っ張ってきた子の引退試合、チームの手伝いをしてきた作者の感慨も深く伝わる。「子の背中」が子を見つめる作者の優しさを滲ませていて印象的である。

言いなりにならぬと言うて吾子の春

いつのまにか強くなった我が子の自我に戸惑を覚えるが、それ以上に子の確かな成長と一途な前進が感じられることへの喜びがよく表れている。

予定なき週末夫と花種蒔く

これまでの忙しかった週末も一段落、ほっとする心の軽さと同時に少し気が抜けもする。「夫と花種蒔く」でこれからの新たな時間を明るく予感させてくれているのが嬉しい。